

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所より10年、地域との連携の中で、人権を大切に 共に喜びあえる 信頼の介護を理念としてきた。職員は、毎年介護目標を立て日々の支援に取り組み、理念を実践につなげている。	ホーム独自の運営理念があり事務所窓口の上部に大きく掲げられ来訪者にも分かりやすくなっている。理念を具体的に達成するために毎年度介護目標を立てており、現状の介護に当たり何が大切かを職員全員で考え決定している。今年度は「学習」と「笑顔」を主題とした二つの目標が掲げられ職員用のトイレなどに張り出し意識づけを図っている。理念や年度目標は毎月のスタッフ会議などで確認し合っている。理念や目標にそぐわない言動があった場合には職員同士で注意を喚起しフォローし合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の一部はオープンガーデンとして開放している。恒例になったサンまつり、地区ボランティアの受入れ、避難訓練に駆けつけて下さるご近所の方々、消防団のラッパ隊が立ち寄りたりと、多くの地域の人々と交流が出来ている。	地元地区との関わりも年々深くなっている。隣接の小規模多機能型事業所とともに実施している8月恒例の「サンまつり」には100人ほどの参加者がありホームが地域にしっかりと根付いている。中学生の職場体験や障害児のプレジョブの受け入れ、歌、踊り、三味線などのボランティアも事ある毎に来訪している。市の文化祭や文化ホールで行なわれる催しなどに付き添ってくれる職員OGのボランティアの存在もホームにとって大切なものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込みを訪れた方より、困っている等相談があればその状況に合わせて小規模多機能施設の紹介をして、選択肢が広がるように支援している。理事長は地域住民の集まりに出向き、認知症の人の理解、介護の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回を計画している。運営理念の理解、利用者の状況、事業の様子を報告している。昨年は、運営推進委員の協力を得て避難訓練の実地をした。多くの意見をいただきサービスに反映している。	会議は隣接の小規模多機能型住宅介護事業所と共に年6回開催されている。家族、区長、民生委員、消防署員、消防団員、近所の方などの参加を得て、利用者状況や活動報告、行事の様子、今後の予定を議題に話し合っている。非常時の避難用スロープや誘導などについての課題提起もあり、地域との関わりやサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の状況を報告する他、行事に参加する機会があり、実際を確認していただいている。今年は、市の実地指導を受けて日常の介護支援等取り組み状況を報告した。また、発症者情報収集システムへの報告を欠かさず実施している。	市が呼び掛ける介護に関する勉強会などに参加している。介護認定の更新時には隣市や隣村からの認定調査員がホームを訪れ、家族了解のもと情報提供している。理事長は講師依頼を受け市内外の勉強会や地域の集まりに出かけ、認知症介護についての理解や普及に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践が出来ている。隣接する施設とは、協力して通路を開放してあり、利用者や職員は、自由に行き来している。	スタッフ会議等で勉強会を行い、拘束についての内容や弊害について職員は十分理解している。平均介護度3、平均年齢も90歳と高くなりつつあり、利用者のリスクを回避するためにベッドの布団にスズをつけたりすることはあるが家族には承諾を得ている。日中、玄関は開錠しており、外出傾向のある入居者もホームの庭や中庭の範囲で満足されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権を大切にすることを理念に掲げて取り組んでいる。研修に参加して学習の機会を持ち理解を深めている。心理的虐待については、特に意識してスタッフ会議で話し合っている。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者がいる。後見人や家族との関わりを通して学ぶことが出来ている。施設内研修で更に理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の説明には、静かな環境で落ち着いて話が出来るように配慮している。利用者やご家族の様子を見て、ゆっくりと説明して質問などを確認している。料金の改定など、変更のある時は文章でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会や行事、運営推進会議に来所した際、管理者や職員は積極的に話す機会を持ち、意見や要望を確認している。意見や要望はスタッフ会議で検討し、サービスに反映している。	ほぼ3分の2の利用者が自身の思いを伝えることができた日頃の支援に活かしている。運営推進会議には一年交代で2家族が出席し、意見・要望を出している。家族会「里の会」が毎年敬老の日に食事を兼ねて開かれており、今年はホーム開設10周年記念としてボランティアによる歌と踊りを楽しみ懇談した。家族の面会も遠方の方でも月に1回はあり、意見や要望などを聞いている。ホームの「サンだより」が毎月発行されており、ホームでのくらしぶりや外出の様子がコメント入りで掲載され、家族とのコミュニケーションづくりに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と同じ業務にあたり、同じ立場、目線で意見や提案を受け止めている。意見や提案は、スタッフ会議で話し合い決定している。	月一回のスタッフ会議が職員全員の都合の良い日の9:00から開催されており、その間は職員OGのボランティアの方2名に利用者の支援に当たっていただいている。ケアカンファレンスは月1~2回、スタッフ会議とは別の日に実施されている。通常の申し送り等の中での「気づき」を大切に課題を共有し対応している。理事長も普段からホームに顔を出し職員に声がけし、時には電話での相談に応じるなど意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は、職員が働きやすい環境作りに積極的に取り組み、利用者に関わる姿勢を示している。職員は役割を分担して、係りの仕事を責任を持ち果たしている。理事長は、職員の意見や要望を前向きに検討し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員が希望する研修があれば参加を勧めている。また、理事長は研修の必要な事をスタッフ会議で職員に話している。研修報告は職員全員が確認して学びを共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、グループホームねっとの会議や研修に参加して交流する機会を持っている。今年度は施設実習を計画している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設の小規模多機能施設からの入所は、普段から交流があり顔なじみの関係作りが出来ている。体験利用を勧めることで、本人の様子、不安や心配なこと、他利用者との関わりの様子など確認して、安心して利用が出来るように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況、思いをしっかりと受け止め、ホームの出来ること、家族に協力して頂きたいことを明らかにし、力を合わせての関係作り心掛けています。サービスを導入する段階で、最期をどのように迎えたいか看取りへの家族の考えを確認している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい場所にも心掛けて、本人や家族の意見や要望を受け止めるようにしている。話し合いをする中で、ホームの出来ること、出来ないことを確認しながら、解決に向けた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に過ごす年月の中で、支えられ教えられることの多いことを知っている。それを大切に感じており、感謝の気持ちは、言葉にして利用者に伝えるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家に帰りたい。家族に会いたい。利用者の家族を想い、つながりを求める気持ちを受け止めて、家族にホームでの様子を伝え、来所の機会が持てるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、お盆にはお墓参りや親戚の家に出掛けたり、法事に参加したり、子供達と食事に出席したり、様々な場面で支援が出来ている。また、「昔からよく知っている先生なの」と受診の機会を楽しみにしている利用者もいる。	兄弟やマキ(一族)の方、普近所に居た方の訪問を受ける利用者があり、利用前の関係を継続できるようにしている。職員の子供が美容師で出張美容に訪れるなど、新たな馴染みの関係作りにも配慮している。隣接小規模多機能型事業所の利用からホームへの利用へと移行する方が増えており、場所的に馴染んでいることや連絡通路を使い日頃から行き来していることも加わり違和感なく利用できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互いに気持ちよく関わり合い、支え合えるように、利用者同士の関係に配慮して、席を変えたり、テーブルの配置の変更をしている。気の合う利用者が一緒に過ごすことが出来る場を提供している。			

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の小規模多機能施設より入所された利用者が増えてきている。施設間の自由な行き来や交流により顔見知りの人や、馴染みの場所との関係の継続支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスには、利用者に参加して頂く事もある。利用者の思いや暮らし方の意向、希望などを職員は利用者の立場に立って、活発に意見交換をして、その実現に努めている。	お茶、お風呂、外出など時間や場所を選んでいただく時に利用者に働きかけ意向や希望に沿っている。耳が聞こえにくい方や言葉を発することが難しい方も意に沿わない時は仕草や表情で表すことができ職員も汲み取っている。利用者は「介護されている。お世話になっている。」という意識の強い年代でもあり、特に排泄時の支援については気を使っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の歴史や暮らし方、生活環境、サービス利用の経過について、出来るだけ情報を頂くように努めている。日々の暮らしの中で、本人から教えて頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長い年月をホームで生活している利用者も多い。共に過ごす経過の中で、利用者の過ごし方、心身状態、有する力が変化する状況が把握できている。出来ること、出来ないことを職員は確認し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題解決に向けて、緊急性のある時など状況に合わせて、家族や本人、関係者と話し合いを持っている。また、カンファレンスでは、職員全員が参加して検討している。カンファレンスの結果を踏まえて、サービス計画を作成している。	以前は職員3人のグループ担当制としていたが、シフト制などの関係から時間調整が難しく、全体でのケアカンファレンスを月1~2回を行なっている。介護計画の期間は6ヶ月であるが見直しは毎月行っており、状況や意向が変わった場合には現状に即して作り替えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はケアの実践の中で、利用者の言動などから気付いたこと、工夫したこと、次のケアにつなげたいことを記録に残している。記録は、カンファレンスやサービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	みどりの介護にある利用者や家族の、日々変化する不安に寄りそい、看護師は昼夜可能な限り見守り、不安の軽減に努めた。入院中の利用者のお見舞い、利用者の状況の確認、家族からの相談を受けるなど、状況や要望により対応している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、様々なボランティアの方、ご近所の方々の力を借りて、楽しみのある暮らしの支援が来ている。髪のカットに訪れる美容師に楽しそうに話しかけたり、鏡に映る姿を嬉しそうに見ている様子もあり、なじみのボランティアに来て頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を確認して、主治医を決めている。利用者の状況や家族の希望があれば、受診の付き添い、往診の依頼など、かかりつけ医との関係を継続し、みどり介護の協力にも関わって頂けるように連携している。	利用開始時のかかりつけ医となっている。本人や家族の希望で協力医に変更することもあり予防接種等は協力医で行われている。緊急時や家族が遠方にいるなどの理由から家族の都合がつかない時には職員が受診に付き添うこともある。隣接の小規模多機能型事業所に2名の看護師がおり、万が一の場合にも協力を仰ぐことが出来、心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常に利用者の健康管理や状態の変化に対応している。職員は体調の変化に気付いた時は、ただちに看護師に報告している。併設の小規模多機能施設の看護師の協力もあり、支援は充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の指示、家族の意向に出来るだけ添うように支援している。利用者の状況に応じては、早期退院が出来るように、地域連携室と連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、サービスの導入時に本人、家族の想いを確認している。また、状況に応じて改めて話し合うことで、その時々意向を確認して、かかりつけ医と連携して支援に取り組んでいる。看護師は職員の不安に配慮して、利用者の状態や対応方法を説明している。	運営規定や重要事項説明書にもホーム内におけるターミナルケアについて明記されている。昨年10月に家族のご希望もあり一人の利用者の看取りを実施した。家族も泊まりこみで介護するなど献身的な姿を見ることができた。利用者の平均年齢が90歳と高齢のことから看取りの希望も増えてきており、家族、医師、職員との綿密な話し合いにより意思統一がされている。職員と家族の信頼関係も大事なことで職員も認識している。若い職員もおり、特に夜勤時の不安を払拭するためにその都度管理者から対処方法についてアドバイスを受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って施設内学習を実施している。誤嚥に対応して吸引器の使用方法を学んだ。管理者は、職員がどのような不安を感じているかを把握し、スタッフ会議で学習の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、地域の方の協力を頂き、昼夜の想定で訓練を実施している。実際に利用者の避難を行ない、利用者個々の状況に応じた避難方法を確認している。スタッフ会議で、地震の時の避難方法など、折に触れて話し合い、職員は確認し学んでいる。	年2回隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で防災訓練を実施している。消防署員あるいは地元消防団員の参加の下、利用者も避難している。訓練は通報連絡訓練から消火訓練、避難・誘導訓練へと実際の流れに沿って行われ、車椅子の必要な利用者を想定し布団につつんで避難させる方法などの助言も頂いている。スプリンクラー他、防火機器・設備も整っており水、食料、介護用品も備蓄されている。	

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時、目立たず、さりげない言葉かけで対応に心掛けている。職員は尊厳、権利の尊重の重要な事を理解している。更に研修などで学びを深めて、職員は、お互いに注意しながら業務に当たっている。	スタッフ会議でトイレのドアの開け放しについて注意があったり、トイレ介助が多くなってきているので声がけに気をつけようとして具体的に話し合っている。会議の中では全職員が守秘義務などについて確認をしている。呼びかけは基本的には名前や苗字に「さん」づけで呼んでおり利用者の状態によって旧姓を使い分けることもあるが、本人の尊厳を傷つけることのないように配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～は、どうしますか」等の声掛けで、利用者の思いや希望を確認している。利用者が難聴の場合は、筆談によりその反応を確認している。表情行動から意志をくみ取るようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしに基本的な流れはあるが、利用者のペースを見守りながら、要望や状況に合わせての対応に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の好みや意向により決めている。本人が決められない場合は、その日の気温や状況に合わせて、職員が選ぶこともある。化粧やカツラ等を楽しむ利用者もいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、テーブル拭きを役割として積極的に取り組んでいる。畑に出掛けて一緒に野菜を収穫してきたり、頂いた野菜を見て貰い、どうやって食べたいか話題にしている。	利用者のその日の状態や献立によっては3分の1の方が一部介助を必要としている。おかゆやミキサー食、キザミ食での対応が必要な方もおり職員が小まめに対応している。食形態の多様化に伴い調理の時間もかかることから調理専門の職員を雇用し、介護職員の負担を軽減している。誕生日の昼食には軟らかなお赤飯を炊き、敬老会には松花堂弁当でお祝いをしている。訪問調査時も色々の話題で盛り上がり、ミキサー食やきざみ食の方も完食していた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせて、食事量や水分量の確認と記録をしている。食事の形態は、咀嚼や飲み込み、むせなどの状況を確認して決めている。利用者の好みに配慮しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の出来ない部分を補うようにしている。利用者の状況に合わせて、歯の治療など歯科医の協力を得て行ない、口腔内の状態を保ち、場合により歯間ブラシを使用するなど、清潔の支援をしている。	

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを確認している他、落ち着いた仕草等、利用者の様子を見逃さないことで、タイミングの良いケアにつなげられるようにしている。利用者個々の状況に合わせて、トイレで排泄する支援が出来る。	介助が必要でリハビリパンツ、リハビリパンツ+パットを使用している方が殆どであるが、自力でトイレへ行ける方も3分の2ほどいる。その他の方は定時でトイレへお連れしたり様子を見て誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。生活リズムに合わせポータブルトイレを使用している方も若干名いる。利用者が失敗した時も職員はそれとなくトイレや居室へと誘導している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取は起床時から1日を通して不足ないように心掛けている。果物や乳製品を取り入れている。排便の状況を確認して、下剤を調整している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望を確認して行なうようにしている。状況に応じて毎日の入浴支援が出来ている。利用者一人一人に関わる時間が増えたこともあり、利用者全員が毎日入浴することは、困難な状況がある。	全利用者が見守りを必要としているが、毎日入浴している利用者もあり、少なくとも1日おきに入浴できるようにしている。浴室には滑り止めマットや手すりをつけ万全を期している。職員二人での介助が必要になる時は隣接の小規模多機能型居宅介護事業所のお風呂を利用している。入浴を拒む人には時間をおいて声がけている。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯など季節を感じながら香りも楽しんでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息は充分にとれるように支援している。利用者の希望や状況により、自由に休息の時間を過ごしており、夜間の睡眠につなげている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者が服用している薬の説明書は、ファイルにまとめて、いつでも確認できるようにしてある。薬の変更や追加の場合は、日誌に記録して全員が確認出来る。利用者の状況に合わせて服薬の支援をし、服薬出来たことを確認し記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望、出来る力を活かして、新聞やちり紙たたみ、カーテンの開け閉め等を、自分の役割として取り組んでいる。水戸黄門があるか、新聞で確認している人、ボール投げゲームに力を発揮する人、利用者に応じた支援に心掛けている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に玄関に出て行く人が、腰をおろして過ごせるようにしている。畑まで行き野菜の様子を見に行く人もいるが、散歩を希望する利用者は少ない。庭に咲く花やリンゴ畑の様子などを伝えて散歩に誘っている。人形博物館やお花見外出など外出の支援は、ボランティア、家族の協力を頂いている。	開設以来の利用者が3分の1、新しく利用する方も高齢化しており、歩行能力が低下しつつあることから外へ出ることが難しくなっている。ホームの前庭や中庭が広く、利用者は自由に歩いている。家族と受診帰りに日用品等の買い物に立ち寄る方もいる。家族も参加し、また職員OGのボランティアにお手伝いいただき、市内の人形博物館や花見、紅葉狩りなどにも出掛けている。

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している人、また希望する人は現在いない。利用者より購入希望があった時は、一緒に出掛けて購入することがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日に届く手紙やお祝いを嬉しそうに受け取る姿がある。電話で家族と話が出来るように、家人の協力を得て、支援することがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールからは、四季を彩る花々やりんご畑が見え、会話が増え、外への意欲にもつながっている。ホール内の四季に合わせた飾りで楽しんでもらっている。空気清浄機を設置し、室内環境にも配慮している。	日本建築の伝統と現代の最新技術を組み合わせた木造在来工法で造られた建物は太い梁や柱を使い、10年を経たとはとても思えないほど清潔で綺麗である。事務所前のスペースとリビング兼食堂の2ヶ所が吹き抜けになっており高窓から入る光により内部が非常に明るく感じられる。リビング兼食堂では利用者がくつろぎ、中庭にはレンガと芝生が敷き詰められ、夏場は日よけテントを張りその下のテーブルでお茶をのんだりホームに居ついた猫と戯れているという。玄関から入った共有スペースの一角にあった畳スペースをフローリングに変えるなど利用者に合わせてハード面の見直しも進めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関から自由に出て、椅子に腰をおろして庭を見たり、ウッドデッキに来る猫に自分好みの名前を付け、声を掛けたり顔を近づけたりしている。それぞれ気の合う仲間とおしゃべりや、TVを楽しむ場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力が有り、思い出の写真等が置かれている。好きな動物等のポスターやぬいぐるみを置く配慮をしている。	南側に面した居室が大半であるが北側に面した居室も明るく、居室には洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられている。自宅から持ち込まれた使い慣れた机やイス、ベッド、最新のデジタルフォトなどが置かれ、ご自身で書かれたと思われる般若心経の書を壁にはり、その般若心経に利用前から同じように手を合わせている利用者もいる。本人の習慣や生活のリズムに合わせて暮らしやすいようにと職員も一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、安全で使いやすいように、トイレや浴室の手すりの増設、畳コーナーをフローリングにかえている。トイレの案内表示を付けて、分かりやすい工夫や、手の届く場所に、画びょうを使わない安全の配慮など、利用者の状況に合わせた対応が出来ている。		